

<p>《国家外汇管理局关于完善远期结售汇业务有关外汇管理问题的通知》（汇发〔2018〕3号） 政策问答</p> <p>1、远期结售汇差额交割和全额交割有什么异同？</p> <p>答：远期结售汇按到期结算方式可分为全额交割和差额交割。全额交割下，交易双方按照事前约定的汇率实际收付人民币和外汇本金；差额交割下，交易双方按照事前约定的汇率与到期时即期汇率轧差结算损益，不实际收付人民币和外汇本金。除结算方式差异外，远期结售汇差额交割与全额交割均可作为对冲外汇风险敞口的套期保值工具。</p> <p>2、客户因跨境交易产生外汇风险敞口，但实际交易并不涉及外汇收支的，银行可否提供远期结售汇差额交割进行套期保值？</p> <p>答：在实需交易原则下，客户使用远期结售汇进行套期保值的前提是存在真实、合规的基础交易并具有外汇风险敞口，若基础交易涉及外汇收支，可选择远期全额交割；若不涉及外汇收支，可选择远期差额交割。例如，进口企业根据外币合同金额以人民币支付关税，若折算汇率不确定，将存在外汇风险敞口，但因不实际支付外汇，可选择远期购汇差额交割进行套保；又如，企业进口签订以外币计价、人民币结算的合同，若折算汇率不确定，同样存在外汇风险敞口，但也不实际支付外汇，可选择远期购汇差额交割进行套保。</p> <p>3、银行是否可为客户金融交易项下的汇率风险办理套期保值？</p>	<p>《国家外貨管理局：為替予約業務の完備に係る外貨管理問題に関する通知》 （匯発〔2018〕3号）の政策問答</p> <p>1、為替予約の差金受渡と全額受渡の相違点は何か？</p> <p>答：為替予約は、期日到来時の決済方式に基づき全額受渡および差金受渡に区分することができる。全額受渡においては、取引双方が事前に約定した為替レートに基づき実際に人民元および外貨元本を支払う；差金受渡においては、取引双方が事前に約定した為替レートと期日到来時の直物為替レートとの差金を計算して損益を決済し、実際の人民元および外貨元本を支払うわけではない。決済方式の差異以外に、為替予約の差金受渡および全額受渡は、いずれも外貨エクスポージャーをヘッジするためのリスクヘッジ手段とすることができる。</p> <p>2、顧客にクロスボーダー取引により外貨エクスポージャーが発生するが、実際の取引が外貨受払に関わらない場合、銀行は為替予約の差金受渡を提供してリスクヘッジを行うことはできるか？</p> <p>答：実需取引原則の下、顧客が為替予約を使用してリスクヘッジを行う前提とは、真実かつコンプライアンスに準拠した基本取引が存在し、かつ外貨エクスポージャーがあることであり、基本取引が外貨受払に関わる場合、為替予約の全額受渡を選択することができる；外貨受払に関わらない場合、為替予約の差金受渡を選択することができる。たとえば、輸入企業の外貨建て契約金額に基づく人民元による関税の支払について、換算レートが不確定な場合、外貨エクスポージャーとなるが、実際の支払は外貨でないため、外貨買い為替予約の差金受渡を選択してリスクヘッジを行うことができる；また、たとえば、企業の外貨建て・人民元払いの輸入に係る契約の締結について、換算レートが不確定な場合、同様に外貨エクスポージャーとなるが、実際の支払は外貨でないため、外貨買い為替予約の差金受渡を選択してリスクヘッジを行うことができる。</p> <p>3、銀行は顧客の金融取引項目の為替リスクのためにリスクヘッジを行うことはできるか？</p>
--	---

**答：** 実需取引原則強調外匯衍生品交易背景の真實性和合規性，并不限制交易背景的經常項目或資本項目性質。對於客戶真實、合規的金融交易產生的外匯風險敞口，銀行可以提供遠期結售匯等外匯衍生品交易進行套期保值。例如，境內企業借用外匯貸款、境外機構投資境內人民幣債券等金融交易，可通過遠期購匯全額或差額交割對沖匯率風險。

**4、境內機構因合併境外子公司財務報表而承擔的匯率折算風險，是否可通過遠期結售匯差額交割進行套期保值？**

**答：** 可以。境內機構依照現行會計管理規定編制財務報表時，因合併境外子公司財務報表而產生的匯率折算風險，可通過遠期結售匯差額交割進行套保。

**5、銀行對於遠期結售匯業務的實需交易背景審核應如何把握？**

**答：** 按照實需交易原則，銀行為客戶辦理遠期結售匯業務應確認客戶是對沖外匯風險敞口。與即期結售匯業務有所不同，作為遠期結售匯業務交易基礎的真實需求背景可能存在預估性和不確定性，不能簡單比照即期業務的做法，將是否有交易單證作為實需交易原則審核的唯一或主要標尺。

銀行應按照“了解客戶”、“了解業務”和“盡職審查”原則展業。與客戶達成合約前，銀行應根據客戶擬叙做遠期結售匯業務的基礎交易實際情況，有針對性地综合运用客戶身份識別、客戶適合度評估、交易背景調查、業務單證審核、客戶聲明或確認函等方法確認所辦業務是否符合實需原則。

**答：** 實需取引原則は、外貨デリバティブ取引背景の真實性およびコンプライアンス性を強調しているが、取引背景の經常項目あるいは資本項目という性質を制限しているわけではない。顧客の真実かつコンプライアンスに準拠した金融取引に生じる外貨エクスポージャーについて、銀行は、為替予約などの外貨デリバティブ取引を提供してリスクヘッジを行うことができる。たとえば、国内企業の外貨ローンの借入・国外機構の国内人民元債券への投資などの金融取引は、外貨買い為替予約の全額あるいは差金受渡を通じて為替リスクをヘッジすることができる。

**4、国内機構が国外子会社を連結財務諸表へ含めることにより負担する為替レート換算のリスクは、為替予約差金受渡を通じてリスクヘッジを行うことができるか？**

**答：** 可能。国内機構が現行の会計管理規定に基づき財務諸表を作成する場合に、国外子会社との連結財務諸表により生じる為替レート換算のリスクは、為替予約差金受渡を通じてリスクヘッジを行うことができる。

**5、銀行は、為替予約業務の實需取引の背景に対する審査をどのように理解すべきか？**

**答：** 實需取引原則に基づき、銀行が顧客のために為替予約業務を取り扱う場合、顧客の外貨エクスポージャーに対するヘッジであることを確認しなければならない。直物両替業務と多少異なり、為替予約業務取引の基本となる真実のニーズ背景には予測性および不確定性が存在する可能性があり、単純に直物業務の方法を比較参照して、取引エビデンスの有無を實需取引原則に対する審査の唯一あるいは主要な尺度とすることはできない。

銀行は、「Know Your Customer」・「Know Your Business」および「デューデリジェンス」の原則に基づき業務を行わなければならない。顧客との契約成立前に、銀行は、顧客が実施を予定している為替予約業務の基本取引の實際状況に基づき、顧客身分の識別・顧客適合性の評価・取引背景の調査・業務エビデンスの審査・顧客の声明あるいは確認レターなどの方法を的確かつ総合的に運用し、取り扱う業務が實需原則に合致するか否かを確認しなければならない。

<p>銀行应引导客户树立“风险中性”意识和健全汇率风险管理，综合运用衍生产品交易、调整收付款时间和计价结算币种等方式管理汇率风险。</p> <p><b>6、远期结售汇与人民币对外汇期权业务的实需交易审核是否存在差异？</b></p> <p><b>答：</b>远期结售汇和人民币对外汇期权业务，在实需交易审核方面应保持一致。</p>	<p>銀行は、顧客が「リスク中立」意識を樹立および為替リスク管理を整備し、デリバティブ取引・受払時期および建値・決済の通貨の種類調整などの方式を総合的に運用して為替リスクを管理するよう指導しなければならない。</p> <p><b>6、為替予約と人民元/外貨オプション業務の実需取引の審査には差異はあるか？</b></p> <p><b>答：</b>為替予約および人民元/外貨オプション業務は、実需取引の審査の方面において一致していなければならない。</p>
---	---